

第30回山形県地方港湾審議会議事録要旨

- 1 日 時 令和5年9月8日(金) 13時30分～14時30分
- 2 場 所 あこや会館 1階ホール
- 3 付議事項 第1号議案 酒田港港湾計画の一部変更について
- ・酒田港港湾計画の一部変更について
 - ・計画段階評価について
- 4 出席委員 菊池輝会長、工藤亜紀子委員、渡辺伸子委員(WEB)、岩間奏子委員、加藤明子委員、平岡清康委員、本間昭志委員、高橋政則委員、阿部靖委員、川手純一委員、矢口明子委員、源新英明(芝雅美)委員、宮澤俊輔(山之内弘幸)委員、山本巧(成川和也)委員、石谷俊史(伊藤雅樹)委員(WEB)、伊藤智人委員
- 16名
- 5 欠席委員 加藤聡委員、相馬佳苗委員、皆川治委員
- 3名

6 事務局報告

山形県地方港湾審議会条例第6条第3項の規定により、本審議会が開会要件を満たしていることを報告した。

7 議 事

(1) 議事録署名委員の指名

議長から、加藤明子委員、平岡清康委員が議事録署名委員に指名された。

(2) 審議

○ 第1号議案酒田港港湾計画の一部変更について、事務局から資料に基づき説明し、適当と認められた。

(主な質問意見)

- ・岸壁での風車の組み立ては、何基ずつ行うイメージか。
- ・基地港湾の指定には2つの海域を持つことが要件になっているが、酒田港は2つの海域をどのように見込んでいるか。
- ・基地港湾は洋上風力発電に資するだけではなく、酒田市やその周辺、山形県全体に経済効果を広げていくことが大事である。地域振興、産業振興策はどのようにになっているか。
- ・洋上風力発電の関連産業の誘致という取り組みが非常に重要になってくる。山形県唯一の重要港湾である酒田港を中心の一つとして捉え、地元と港湾管理者が連携して取り組みを進めていただきたい。
- ・これだけ大きな港湾施設ができ、洋上風力発電事業者が選定されてくると、大勢の人、車が往来することになるため、道路インフラの整備も必要になる。多くの人々が動くことで、建設業だけでなく多業種への経済効果が生まれると期待している。
- ・貨物船30,000DWT級を対象として計画しているが、将来的に船舶が大型化した場合、喫水等条件をクリアしていれば接岸できるか。
- ・海と港の安全について、SEP船等の大型化を含めその都度安全を確保できるように一緒に検討し、安全対策をとっていただいた上で事業を進めていくものと考えている。
- ・入港船舶貨物に対する手続きを可能な限り迅速に進めたいので、情報提供を早めにとりたい。

以上